

メンガー文庫、ギールケ文庫の事務資料の調査について

本学附属図書館に残る古い事務資料群の最近の調査等によって確認された事柄で、古典資料センターに関連する事項を、以下簡単に報告する。

(1) 関東大震災後の東大へのメンガー文庫・ギールケ文庫からの図書売却について

① 東京大学経済学部図書館に44件80冊のカール・メンガー旧蔵書が所蔵されており、それは1924年3月31日付けで一括して購入されたものであることは、1980年に同学部によって確認された。しかしこの入手径路については不明確なままとなっていた。だが上記資料群の中には、「東京帝国大学経済学部研究室御中」と記された請求書（下書き）と図書リスト、引き渡しの際の受領書などが含まれており、それは図書の内容、金額ともに東大側の図書原簿と一致し、また当時の会計記録とも一致している。またそれは同資料群の中の「原簿」（メンガー文庫の本学図書館への正規の受入手続時に台帳として使用されたと思われる）において、斜線により削除され確認印の押されている分とも一致した。これによって、現在東大で確認されている80

冊がすべてこの時の売却によるものであることは明確となった。またこれらの資料からは、これ以外のメンガー文庫からの割譲を示すものは見いだされなかった。

② 次にギールケ文庫についてであるが、上記資料群の中には、①と同書式の東京帝大経済学部宛の請求書下書き、および「帝大法学部へ売リタル図書ノ件」と表書きされた封筒と同封の図書リスト等が見いだされた。これは、『一橋大学附属図書館史』に「本学の蔵書と重複するものは幾分他へ譲渡せられた」とあり、譲渡の事実だけは公に記録されていたものである。また同文庫の函架カードを調べてみると、これはメンガー文庫と異なって売却時にはすでにカード整理が済んでいたものと思われ、カード列の最末尾に「1. 帝大経済学部 併ニ 2. 帝大図書館へ譲与セル分」として144件分がまとめられているのが確認された。そして東大で図書原簿と照合した結果、これらは、経済学部図書館に大正13年3月29日付けで登録された分（手書きで「佐野善作 ギ」とだけ記されている）、法学部図書室に翌14年2月7日付けで登録された分であることが判明した。これも図書の内容、金額ともに会計資料と一致している。両館ともこれらは一般書の中に混配されて由来はまったく忘れられていたが、そのうちのいくつかを閲覧するとギールケの署名付の書、イエリネクのギールケへの献呈辞付の書などが見い出された。またこの法学部売却分については、上記資料群に残る書簡から、鳩山秀夫帝大教授が帝大側から交渉にあたったことが分かる。

(2) 大塚金之助、岩田新両教授の書簡について

上記資料群、および現在古典資料センター内で保管している三浦新七教授の遺稿の中に、大塚金之助書簡15通、岩田新書簡7通、山内得立書簡1通が見い出された。まず大塚書簡は、主に大塚の在独時代の1922年12月から帰国直前の翌23年11月までのもので、三浦新七宛4通、鈴木善吉（当時の図書館員）宛11通であり、うち三浦宛の2通と鈴木宛の書簡は「大塚教授荷物ノ件」と表記されて一冊に綴じられており、他の2通は三浦遺品中のものである。いずれも彼の『全集』編纂時には未確認の書簡であり、メンガー作成の「ツェッテル・カタログ」の扱いについての予定変更の事情など文庫関係資料としても貴重であり、また資料の乏しい大塚の滞欧最後の1年間の模様を窺わせてくれる。また岩田書簡は、ギールケ文庫の購入、整理に関して、またヨーロッパでのその他の書籍の買い付けに関しての三浦宛のもので、現在のギールケ文庫目録の作成に関する基礎資料である。また当時の商大図書館の蒐書方法がどのようなものだったかも知ることができる。

[記：岩本吉弘（社会科学古典資料センター助手）]

* 拙稿「メンガー文庫と大塚金之助 1923年-24年」（『学燈』、1996年4月号）を併せて参照されたい。